



平成 27 年5月 28 日

【照会先】

大阪労働局健康課

(電 話)06 (6949) 6500

報道関係者 各位

“習慣づけよう熱中症予防”

～6月から9月まで職場における熱中症予防対策を実施～

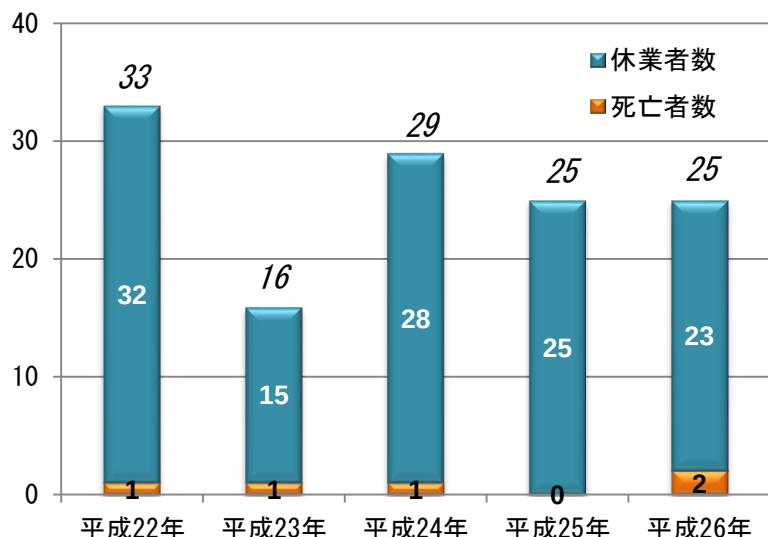
- 大阪労働局（局長 中沖 剛）は、平成 26 年の府下の事業場における熱中症の発生状況と予防対策の取組状況を取りまとめた。
- 平成 26 年は5月から熱中症が発生したことから、本年は熱中症予防対策セミナーの開催を例年より前倒しして5月 25 日から開催している。

1 平成 26 年の府下の事業場における熱中症の発生状況

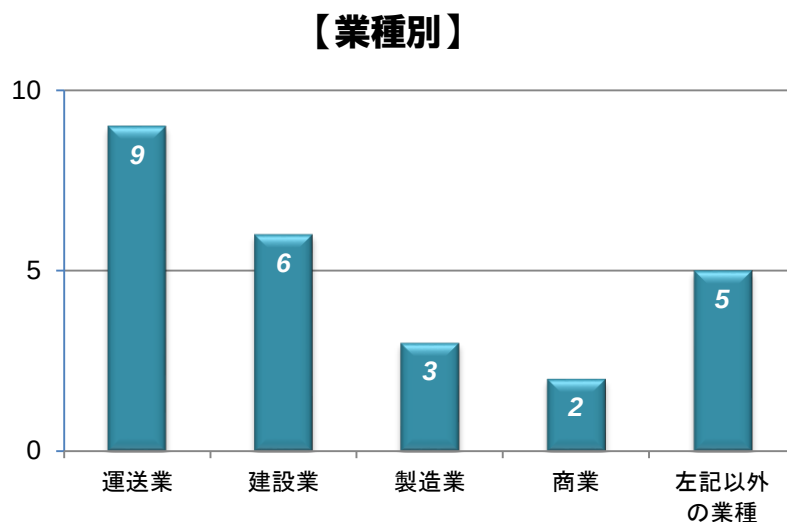
（資料 1、2 参照）

【死傷者数】

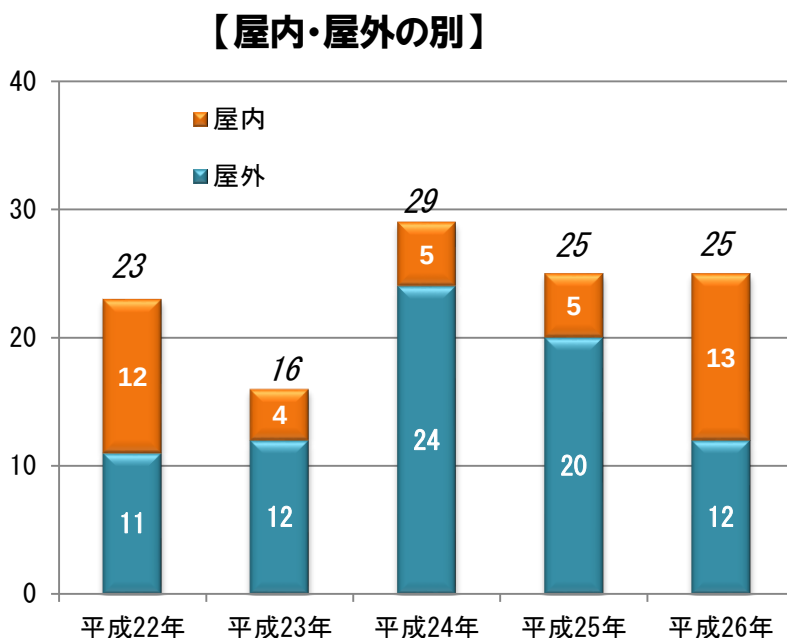
☆ 熱中症による休業 4 日以上之死傷者は、前年と同数の 25 人であった。また、死亡者は 2 人（前年なし）であった。



◇ 業種別では、運送業9人、建設業6人と屋外作業の多い業種が目立つ。



◇ 屋内作業で13人と過半数を占め、屋内であっても注意が必要である。



平成26年の全国の熱中症による死亡者は12人と前年の30人から**大幅な減少**となった。同年は天候不順であったことが影響しているものと考えられる。

一方、府下では猛暑日、真夏日及び熱帯夜とも少なかったにも関わらず、死傷者は前年と同数であり、また、屋内作業における発生が多かったことから、**屋内においては天候に関わらず熱中症予防対策を十分講じることが重要**である。

2 熱中症予防対策の取組状況 (資料3参照)

○ 調査した府内 890 事業場のうち、190 事業場 (21.3%) において、熱中症予防の取組が未実施又は不十分であった。

○ 主な未実施又は不十分であった項目は、

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ・ WBGT 値 ^(※) による評価、管理 | 48.9% |
| ・ 熱中症予防対策責任者の選任 | 37.9% |
| ・ 健診結果に異常のある者に対する事後措置 | 34.2% |

等である。

※ WBGT 値(Wet-Bulb Globe Temperature : 湿球黒球温度 (単位℃) 値とは、暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数である。

大阪労働局は、毎年 6 月から 9 月までを熱中症予防の強調期間と定め、平成 26 年度は 7 月から 9 月までの 3 か月間に管内 13 労働基準監督署において熱中症予防の取組状況について事業場調査を実施した。

調査項目は、管理体制、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育及び救急措置等である。

3 平成 27 年度の熱中症予防の取組について

(資料4、5参照)

○ 平成 27 年度の熱中症予防対策として、次の取組等を実施する。

- ・ 熱中症予防対策セミナーの開催
- ・ ホームページ、パンフレット等による周知啓発
- ・ 事業場に対する熱中症予防の指導

大阪労働局は、平成 27 年度も 6 月から 9 月までを熱中症予防の強調期間と定め、次の取組を行うこととしている。

- (1) 大阪労働局長 安全衛生パトロール (6 月 2 日)
- (2) 熱中症予防セミナーの開催
【開催日：5 月 25 日、6 月 5 日、6 月 8 日、6 月 16 日】
- (3) 建設業、運送業及び製造業など熱中症の発生が懸念される個別事業場に対する熱中症予防の指導 (取組状況の調査を含む。)
- (4) 熱中症予防に関する「安全の見える化」の取組促進

大阪府下の熱中症による労働災害の発生状況について

表 1 熱中症による死傷災害（休業 4 日以上）の発生状況 (人)

	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年
被災者数	11 (0)	20 (2)	25 (1)	15 (0)	8 (1)	33 (1)	16 (1)	29 (1)	25 (0)	25 (2)

(注) () 内は死亡者数で内数

表 2 月別発生状況（平成 20～26 年） (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
平成 20 年			2	8	4	1	
平成 21 年				3	5 (1)		
平成 22 年				7	24 (1)	2	
平成 23 年			1	4	11 (1)		
平成 24 年			1	11 (1)	14	3	
平成 25 年	1		1	6	13	3	1
平成 26 年		1		17	6 (1)	1 (1)	

(注) () 内は死亡者数で内数

表 3 業種別発生状況（平成 20～26 年） (人)

	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年
製造業	0	2 (2)	11 (10)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	3 (3)
建設業	5 (2)	1	11	4 (1)	8	9 (1)	6 (1)
運送業	3 (1)	1	7 (2)	3 (1)	4	4 (1)	9 (2)
貨物取扱業	1	0	0	0	0	1	0
商業	1	0	0	0	3 (1)	1 (1)	2 (2)
上記以外の業種	5 (2)	4 (1)	4	6	11 (3)	9 (1)	5 (5)
内ゴルフ場	0	0	0	0	0	0	0
内ビルメンテナンス業	0	3 (1)	1	2	5 (1)	1	1 (1)
内警備業	0	0	0	2	2	3 (1)	0
合 計	15	8	33	16	29	25	25
(屋内作業の災害件数)	(4)	(3)	(12)	(4)	(5)	(5)	(13)

(注) () 内は屋内における死傷者数で内数

表4 年代別災害発生状況

(人)

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
10～19歳				1		3	1
20～29歳	3		2	2	4	4	3
30～39歳	5	3	9	3	4	2	2
40～49歳	5	1	11	3	8	3	7
50～59歳	1	2	10	4	7	7	7
60歳～	1	2	1	3	6	6	5

表5 死亡災害発生状況（平成13年以降）

(人)

	13年	18年	19年	21年	22年	23年	24年	26年
製造業								1
建設業	4	2	1		1	1		
運送業				1				
上記以外							1	1
合 計	4	2	1	1	1	1	1	2

(注) 平成14～17年及び平成20・25年は死亡者なし

(参考1)

平成20年～平成26年における猛暑日等の日数

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
猛暑日(最高気温35℃以上)	13	3	31	7	12	23	5
真夏日(最高気温30℃以上)	71	73	82	76	75	88	65
熱帯夜(最低気温25℃以上)	42	27	55	51	43	47	29

(参考2) 熱中症にかかる事業場調査等実施状況（平成23年～26年）

	23年	24年	25年	26年
調査実施事業場数	705	816	832	890
対策が不十分として指導した事業場数(割合)	167 (23.7%)	190 (23.3%)	212 (25.5%)	190 (21.3%)

(参考3)

全国の熱中症による死亡災害の発生状況

(人)

	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
死亡者数	23	17	18	17	8	47	18	21	30	12

平成26年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例 (休業4日以上)

大阪労働局 労働基準部 健康課

発生 月日		発生 時刻	業 種	休 業 日 数	性 別	年 齢	最 高 気 温 (℃)	最 高 WBGT (℃)	発 生 状 況 の 概 要
1	5月30日	13時30分	建 設 業	4日	男	42歳	29.5	25.1	34階ベランダで落下防止用のアルミネットの復旧作業中、吐き気がして気分が悪くなり休憩したが、回復せず病院へ搬送された。
2	7月2日	8時00分	運 送 業	5日	男	48歳	31.6	27.1	倉庫でフォークリフト乗車中、体調不調になり休憩したが、回復せず1時間後に早退した。
3	7月8日	15時00分	建 設 業	28日	男	67歳	32.6	30.2	道路舗装切断作業を終了し事務所に帰ったところ、左足が動かず工事車両から降車できないため、車内で安静にしていたが、回復せず病院へ行った。
4	7月9日	10時30分	運 送 業	7日	男	18歳	32.4	29.3	引越作業を開始して約1時間後、気分が悪くなり、病院へ搬送された。被災者は久々の現場作業であり、朝食は取っていないかった。
5	7月11日	11時00分	製 造 業	7日	男	24歳	32.0	29.5	工場内において、生産ラインのオペレーティング中、めまい、脱力感に見舞われ動けなくなった。
6	7月17日	11時00分	建 設 業	14日	男	61歳	33.9	30.2	9時頃からコンクリート打設中、11時頃に気分が悪くなったが、19時30分まで勤務して帰宅し、翌日も勤務したものの気分が優れず、勤務後に病院へ行った。
7	7月17日	19時30分	運 送 業	5日	男	51歳	33.9	30.2	バスの運転席付近が暑く我慢して乗務したが、帰宅後、体調の不調を感じて病院へ行った。
8	7月20日	12時30分	運 送 業	5日	男	46歳	32.5	28.8	車掌として乗車するためコンコースを歩行中、体調不良になり休憩したが、回復せず病院へ搬送された。
9	7月22日	10時00分	運 送 業	4日	男	23歳	33.4	29.0	9時頃からトラックへ積み込み作業中、次第に頭痛、倦怠感が出てきたため、水分補給や体を冷やした後、病院へ行った。
10	7月22日	15時00分	建 設 業	7日	男	70歳	33.4	29.0	8時から倉庫で機材等の整理作業を行っていたところ、15時頃から体調が悪くなり、寮へ戻り休息していたが、回復せず病院へ行き入院した。
11	7月24日	15時00分	建 設 業	9日	男	29歳	35.0	31.0	アンカーに使用する鉄筋を、まくばり中に足にけいれんが発生し体調が悪くなった。
12	7月24日	15時50分	運 送 業	12日	男	54歳	35.0	31.0	集配先の倉庫内で荷物の積み込み作業中、吐き気と目を開けていられないほどのめまいを起こした。
13	7月25日	16時50分	製 造 業	17日	男	53歳	37.1	31.8	伸線作業場で伸線作業中、突然体調の変調を訴え、倒れた。

発生月日		発生時刻	業 種	休業日数	性別	年齢	最高気温(℃)	最高WBGT(℃)	発 生 状 況 の 概 要
14	7月26日	11時30分	社会福祉施設	30日	女	40歳	35.7	30.9	10時30分から訪問先の2階で室内清掃中、徐々に体調が悪くなり、両手・両足にしびれを起こし、病院に搬送された。
15	7月26日	15時00分	商 業	60日	男	48歳	35.7	30.9	午後からショッピングセンターで、自販機のおペレーション作業と空缶回収作業を行っていたが、15時頃に2階トイレで熱中症のため倒れていたところを発見された。
16	7月29日	11時00分	ビルメンテナンス業	6日	男	40歳	34.9	29.5	ビルの清掃現場で屋内の共用階段を清掃中、急に気分が悪くなり、脱水症状を起こし、救急車で搬送された。
17	7月31日	13時30分	運 送 業	4日	男	56歳	35.5	30.5	13時過ぎから事業所構内の屋外で、フォークリフトでトラックの積み荷の搬送作業をおこなったが、作業後に体にだるさを感じ病院へ行った。
18	7月31日	23時30分	運 送 業	5日	男	57歳	35.5	30.5	荷物を下ろして帰社中、気分が悪くなり吐き気が続いて脱水症を起こし、運転が出来なくなったため、駐車場に停車して自ら救急車を呼び、病院へ搬送された。
19	8月6日	16時40分	その他の事業	死亡	男	52歳	31.9	30.3	屋外でトラックの荷台に載せた荷物を紙焼却物と木くずに仕分け、その後、木くずを運送先の屋内施設で荷卸している時、意識を失い病院へ搬送された。
20	8月7日	10時30分	建 設 業	14日	男	63歳	33.6	29.9	解体工事現場で水まき作業中、10時頃から体調が悪くなり、休憩したが、回復せず早退後に病院へ搬送された。
21	8月15日	16時40分	飲 食 業	8日	女	51歳	34.0	31.1	厨房で調理中、急にめまいがして立っていられなくなり、救急車で病院へ搬送された。
22	8月18日	14時10分	その他の事業	30日	男	42歳	33.8	30.6	密閉されたタンク内で、5人でタンク底板の目視検査中、休憩のためにタンク外に出た際、被災者に声をかけても反応なく、意識もなかったため、病院へ搬送された。
23	8月19日	18時00分	商 業	8日	男	36歳	33.9	30.9	倉庫内で商品の仕分け作業中、気分が悪くなり倒れた。
24	8月21日	14時00分	運 送 業	6日	男	39歳	32.9	30.1	トラックの積卸し作業の助手として、荷物を配達中、脱水症状になった。
25	9月1日	11時30分	製 造 業	死亡	男	76歳	24.4	23.4	金属製品の加熱処理用の電気炉でメンテナンスを行ってが、中扉が閉まり、加熱室内（室内温度は50度）に閉じ込められた。

WBGT値については環境省より
(休業4日以上事例)

は屋内作業の事例

熱中症にかかる事業場調査等実施状況（平成26年7月～9月）

大阪労働局

調査・指導状況 業 種		調査実施事業場数	点検事項指導事業場数	管理体制	作業環境管理					作業管理					健康管理					衛生教育	救急措置		
				予防対策責任者の選任	暑熱環境のWBG T基準値による評価、管理	冷房等の設備設置、ふく射熱からの保護対策	適正な休憩場所の確保	飲料水などの備付等	等の設置 冷おしぼり、シャワー等の身体を冷やす設備	休憩時間の確保、連続作業時間の短縮	変更等 身体作業強度が高い作業の忌避、作業場所の	水分及び塩分の摂取の指導	透湿性、通気性のよい服装の着用	作業中の健康状態の確認、巡視の実施	措置 健康診断結果に異常所見がある労働者の事後	治療中の労働者への熱中症予防の対応の必要	性の指示等 治療中の労働者への熱中症予防の対応の必要	作業開始前、作業中の健康状態の確認	日常の健康管理指導の実施	管理者及び労働者に対する労働衛生教育の実施	症状に応じた具体的な救急処置内容の周知	医師の全員の周知 手当を受けさせることが原則であること	病院等の連絡先等の関係者への周知
製造業	件数	308	65	22	40	14	12	12	16	16	14	12	13	15	28	19	21	10	16	26	21	20	22
	割合		21.1%	33.8%	61.5%	21.5%	18.5%	18.5%	24.6%	24.6%	21.5%	18.5%	20.0%	23.1%	43.1%	29.2%	32.3%	15.4%	24.6%	40.0%	32.3%	30.8%	33.8%
建設業	件数	295	52	12	23	9	8	7	15	10	8	8	11	7	22	18	19	6	7	12	11	8	9
	割合		17.6%	23.1%	44.2%	17.3%	15.4%	13.5%	28.8%	19.2%	15.4%	15.4%	21.2%	13.5%	42.3%	34.6%	36.5%	11.5%	13.5%	23.1%	21.2%	15.4%	17.3%
運送業	件数	60	16	6	11	3	1	1	3	2	7	5	4	5	5	4	3	2	3	4	10	7	8
	割合		26.7%	37.5%	68.8%	18.8%	6.3%	6.3%	18.8%	12.5%	43.8%	31.3%	25.0%	31.3%	31.3%	25.0%	18.8%	12.5%	18.8%	25.0%	62.5%	43.8%	50.0%
貨物取扱業	件数	6	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合		16.7%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
商業	件数	78	15	6	8	1	1	4	3	5	5	5	2	5	4	3	7	2	4	7	6	6	2
	割合		19.2%	40.0%	53.3%	6.7%	6.7%	26.7%	20.0%	33.3%	33.3%	33.3%	13.3%	33.3%	26.7%	20.0%	46.7%	13.3%	26.7%	46.7%	40.0%	40.0%	13.3%
その他の事業	件数	143	41	26	10	2	1	1	1	0	1	2	3	0	6	2	12	0	1	3	3	1	0
	割合		28.7%	63.4%	24.4%	4.9%	2.4%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	4.9%	7.3%	0.0%	14.6%	4.9%	29.3%	0.0%	2.4%	7.3%	7.3%	2.4%	0.0%
合 計	件数	890	190	72	93	29	23	25	38	34	35	33	33	32	65	46	62	20	31	52	51	42	41
	割合		21.3%	37.9%	48.9%	15.3%	12.1%	13.2%	20.0%	17.9%	18.4%	17.4%	17.4%	16.8%	34.2%	24.2%	32.6%	10.5%	16.3%	27.4%	26.8%	22.1%	21.6%

（注）点検事項別の割合は、点検事項の取組に指導を行った事業場の割合を示す。

熱中症 予防対策 セミナー

職場における熱中症災害による死者は、6月・7月・8月の3ヶ月間に集中しています。

事業場内で多発する熱中症の予防対策について医師の視点からみた予防対策と、大阪労働局健康課担当官による大阪府下における熱中症の事例等について学びます。

平成27年5月25日 月 14:00~16:30

平成27年6月 5日 金 14:00~16:30

平成27年6月 8日 月 14:00~16:30

平成27年6月16日 火 14:00~16:30

※同じ内容ですので都合のよい日程をお申込ください

定員：各回80名（先着順で受付）

対象：産業保健スタッフ（衛生管理者・労務担当者等）

大阪中央労働総合庁舎 6階講堂

（大阪市中央区森ノ宮中央1-15-10 中央労働基準監督署6階）



●JR森ノ宮駅下車 徒歩3分

●地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線

森ノ宮駅(7番B出口)下車 徒歩3分

（なお、会場には駐車スペースがありませんので、電車等公共交通機関をご利用ください）

講師

山田 誠二

医師 労働衛生コンサルタント

昭和50年京都府立医科大学卒業。

前パナソニック産業保健センター所長。

山田誠二産業保健センター所長（現職）

平成16年から大阪産業保健推進センター産業保健

相談員。平成26年大阪産業保健総合支援センターに改称。



参加費無料

主催：独立行政法人労働者健康福祉機構大阪産業保健総合支援センター、大阪労働局

お問い合わせ：06-6944-1191（大阪産業保健総合支援センター）

熱中症予防対策セミナー

参加申込書

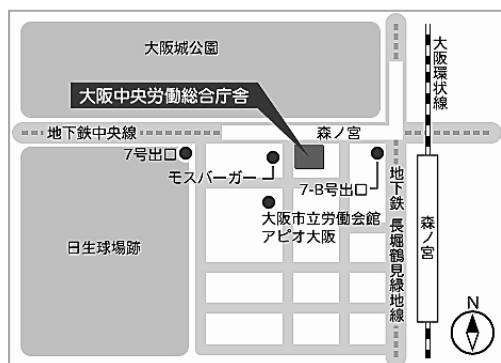
送付先 FAX 06—6944—1192

事業場名			
連絡先 電話番号	()	連絡先 FAX番号	()
所在地	〒		

フリガナ 参加者氏名		所属部署	
役職	産業医 ・ 産業看護職 ・ 衛生管理者 ・ 労務管理担当者 ・ 安全衛生担当者 その他〔 〕		
希望日	平成27年 月 日 ()		

フリガナ 参加者氏名		所属部署	
役職	産業医 ・ 産業看護職 ・ 衛生管理者 ・ 労務管理担当者 ・ 安全衛生担当者 その他〔 〕		
希望日	平成27年 月 日 ()		

フリガナ 参加者氏名		所属部署	
役職	産業医 ・ 産業看護職 ・ 衛生管理者 ・ 労務管理担当者 ・ 安全衛生担当者 その他〔 〕		
希望日	平成27年 月 日 ()		



大阪中央労働総合庁舎 6階講堂

(大阪市中央区森ノ宮中央1-15-10 大阪中央労働基準監督署6階)

- JR森ノ宮駅下車 徒歩3分
- 地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線
森ノ宮駅(7番B出口)下車 徒歩3分

(なお、会場には駐車スペースがありませんので、電車等公共交通機関をご利用ください)

熱中症を防ごう！

気温が上昇する夏季は、屋外作業はもとより屋内作業においても、熱中症が多発しています。昨年大阪府内において発生した熱中症による災害件数は、休業4日以上災害が25件(うち死亡2人)です。そのうち屋内は13件です。(裏面に災害事例の抜粋を掲載しています。)

大阪労働局では、平成21年6月「職場における熱中症予防対策要綱」を策定し、職場における熱中症予防対策の推進を図っていますが、各職場においては、上記対策要綱に基づいた取り組みを強化し、熱中症の予防対策を徹底して下さい。

熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称であり、軽度では、めまい、こむらがり等の筋肉痛や硬直等、中等度では、頭痛、嘔吐、倦怠感等、重度では、意識障害、けいれん、意味不明な言動、運動障害、高体温等様々な症状が現れます。

事業主の皆様へ

- ◆WBGT値(暑さ指数)の活用など、「職場における熱中症予防対策要綱」に基づいた取り組みを強化しましょう。
- ◆日本気象協会などの熱中症情報を取得し、警戒レベルをイラストで表現するなど、作業者にわかりやすく伝え意識の高揚を図りましょう。(熱中症予防の見える化)

「職場における熱中症予防対策要綱」の詳細及び「熱中症予防の見える化」事例は大阪労働局のホームページを参照してください。

◆「熱中症予防対策要綱」

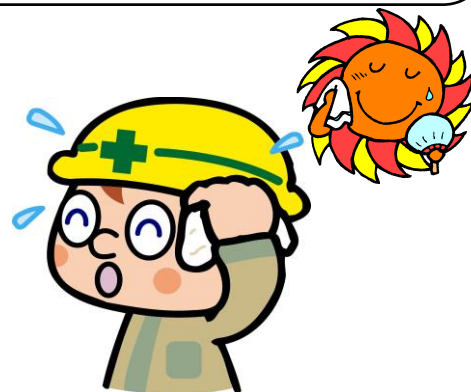
ホーム > 安全衛生 > 労働衛生関係 > 職場における熱中症予防対策 > 職場における熱中症予防対策要綱

◆「熱中症予防の見える化」事例

ホーム > 安全衛生 > 安全関係 > ゼロ災・大阪「安全見える化運動」 > 『安全見える化パネル展』事例集

働いている皆様へ

- 作業前には健康状況をチェックしましょう。
- 直射日光を避け、こまめに水分・塩分をとりましょう。
- 休憩は風通しのよい涼しい場所でとりましょう。
- 熱への順化期間を設けて作業をしましょう。
- 睡眠を十分にとり体調管理に気をつけましょう。
- 少しでも体調不良を感じたときは、早めに申し出て医療機関で診察を受けましょう。



平成26年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例（休業4日以上）

大阪労働局 労働基準部 健康課

	発生 月日	発生 時刻	業 種	休 業 日 数	性 別	年 齢	最 高 気 温 (℃)	最 高 WBGT (℃)	発 生 状 況 の 概 要
1	8月6日	16時40分	その他の事業	死亡	男	52歳	31.9	30.3	屋外でトラックの荷台に載せた荷物を紙焼却物と木くずに仕分け、その後、木くずを運送先の屋内施設で荷卸している時、意識を失い病院へ搬送された。
2	9月1日	11時30分	製 造 業	死亡	男	76歳	24.4	23.4	金属製品の加熱処理用の電気炉でメンテナンスを行ってが、中扉が閉まり、加熱室内（室内温度は50度）に閉じ込められた。
1	5月30日	13時30分	建 設 業	4日	男	42歳	29.5	25.1	34階ベランダで落下防止用のアルミネットの復旧作業中、吐き気がして気分が悪くなり休憩したが、回復せず病院へ搬送された。
2	7月2日	8時00分	運 送 業	5日	男	48歳	31.6	27.1	倉庫でフォークリフト乗車中、体調不調になり休憩したが、回復せず1時間後に早退した。
3	7月11日	11時00分	製 造 業	7日	男	24歳	32.0	29.5	工場内において、生産ラインのオペレーティング中、めまい、脱力感に見舞われ動けなくなった。
4	7月17日	19時30分	運 送 業	5日	男	51歳	33.9	30.2	バスの運転席付近が暑く我慢して乗務したが、帰宅後、体調の不調を感じて病院へ行った。
5	7月22日	15時00分	建 設 業	7日	男	70歳	33.4	29.0	8時から倉庫で機材等の整理作業を行っていたところ、15時頃から体調が悪くなり、寮へ戻り休息していたが、回復せず病院へ行き入院した。
6	7月26日	11時30分	社会福祉施設	30日	女	40歳	35.7	30.9	10時30分から訪問先の2階で室内清掃中、徐々に体調が悪くなり、両手・両足にしびれを起こし、病院に搬送された。
7	7月29日	11時00分	ビルメンテナンス業	6日	男	40歳	34.9	29.5	ビルの清掃現場で屋内の共用階段を清掃中、急に気分が悪くなり、脱水症状を起こし、救急車で搬送された。
8	8月15日	16時40分	飲 食 業	8日	女	51歳	34.0	31.1	厨房で調理中、急にめまいがして立っていられなくなり、救急車で病院へ搬送された。
9	8月18日	14時10分	その他の事業	30日	男	42歳	33.8	30.6	密閉されたタンク内で、5人でタンク底板の目視検査中、休憩のためにタンク外に出た際、被災者に声をかけても反応なく、意識もなかったため、病院へ搬送された。
10	8月19日	18時00分	商 業	8日	男	36歳	33.9	30.9	倉庫内で商品の仕分け作業中、気分が悪くなり倒れた。

★平成26年発生業種を全て掲載しました。また、業種で複数発生分は屋外と屋内の両方を掲載しました。その結果、今回は抜粋ですが屋内の事例が多数になりました。

WBGT値については環境省より



は、屋内作業

(27.4.2作成)